

願力不思議の信心が 悪鬼神から護って下さいます

親鸞聖人の書かれた現世利益和讃げんぜりやくわさんという十五首の歌があります。十二首目に「願力不思議の信心は仏陀の覚りの心なので、天地に存在するすべての悪鬼神が恐れます」とあります。

恐れるのは何も悪鬼神だけではないような気がします。例えば、病院でお坊さんの法衣で歩くと、「縁起でもない！」と聞こえてきます。ましてや「なもあみだぶつ」とお念仏したものなら大変です。また、飛行機で乱気流に遭遇した時に、誰かが「なんまんだぶ」と唱えた時に、「縁起でもない！」と声が聞こえてきました。

あの「縁起でもない」という言葉はきっとその人の煩惱の叫びだったのだと味わっています。「なもあみだぶつ」は煩惱を完全消滅して仏陀にさせて下さるのですから、煩惱にとって「なもあみだぶつ」は受け入れられない存在なのです。それが悪鬼神の正体です。何も悪鬼神が存在しているのではなく、一人一人の心の中に煩惱という悪鬼神が存在します。その煩惱に邪魔されることなく、願力不思議の信心を阿弥陀仏が私達に与えて下さるのですから、私達は完全に救済されているのです。

阿弥陀仏から見れば、なもあみだぶつのエネルギーで生きている私達なのですが、私達は煩惱のエネルギーで生命活動していますから、煩惱に反応してしまうのです。

しかし、なもあみだぶつのはたらきによって煩惱に振り回されない生き方ができるのです。合掌

写真は八瀬の地蔵盆

